

気仙光陵支援学校

研究テーマ

「児童生徒一人一人が主体的に取り組む授業づくり・生活づくりを目指して」

～PDCA サイクルによる授業改善を通して～
(3年次研究2年目)

1 全体研究

(1) 主題設定の理由

学習指導要領が改訂され、「主体的・対話的・深い学びの実現」が重要視されている。

児童生徒が主体的に取り組む授業づくり・生活づくりに、系統性・発展性をもって取り組むことで、児童生徒が小学部から高等部まで主体的に活動し、達成感や充実感を感じる経験を積み重ねたことにより、それが、将来の、自立し、豊かな充実した生活につながると考え、本テーマを設定した。

(2) 研究の目的

児童生徒の主体的に取り組む姿の実現に向けて、PDCA サイクルによる授業改善・支援の充実を図り、児童生徒一人一人が主体的に活動に取り組む授業づくり・生活づくりを目指す。

(3) 研究の内容

- ① 学部毎に「主体的に取り組む姿」を押さえ、それを促す指導内容・指導計画を検討・立案する。(2・3年次)
- ② 授業実践をとおして「主体的に取り組む姿」を目指した授業改善(2・3年次)

(4) 今年度の実践

【全校研究】

- ① 校内研究方向性の確認
- ② 全校授業研究会の実施(3回)
 - ・第1回：小学部低学団 生活単元学習
 - ・第2回：高等部 選択教科美術
助言 学校教育課 主任指導主事
藤原 淳一 氏
 - ・第3回：小学部低学団 遊びの指導
中学部 体育

※開かれた授業研究会との併催

- ③ 2年次の研究のまとめ

【学部・寄宿舎研究】

① 小学部

学部研究テーマに基づいて2年次を進めてきた。年間指導計画を見直し、「授業改善シート」の改善・作成及び評価について話し合い、大きなPDCAサイクルと小さなPDCAサイクルを組み合わせることにより、児童が意欲的・主体的に活動できるよう授業づくりに取り組んだ。

② 中学部

「Actionシート」を見直したり、記入された生徒の様子から主体性を表すキーワードをリストアップしたりと、主体性を引き出す授業づくりに取り組んだ。シートを細かく記入することで、授業の様子や教師の手立て、それに伴う生徒の変化を確認することができ、授業作りにおける一つのツールとして活用できた。

③ 高等部

選択教科を実践の場として設定し、授業改善のツールの一つとして、「自ら学ぶ」「自ら取り組むことができる」キーワードを基に、授業改善シートを作成した。8月からシートの活用を始め、教科担当内の情報共有を図りながら、テーマ達成を目指した授業改善を行った。

④ 寄宿舎

PDCAサイクル表とリンクした行動記録を用い、支援の観点を統一し明確化することにより、舎室担当および棟全体で児童生徒の課題や目標を共有し、月に一度、生徒の様子について各棟で話し合い、寄宿舎全体で確認しながら、より効果的な支援方法を導き出す取り組みを行った

2 高教研講演会

演題：「新学習指導要領を踏まえた授業作り～PDCAサイクルによる授業改善を通して～」

講師：東北福祉大学 教授 大西 孝志 氏
期日：令和元年8月2日(金)

参加者：74名

3 刊行物 研究集録は刊行していません。